

子供の学力は 黄金の三日間で決まる

向山洋一氏が示した「黄金の三日間」をきちんと理解しているかどうか、全力で実践したかどうか。それがこの一年間を天国にするか地獄にするかを決める分かれ道だと言っているでしょう。

続いている長谷川氏。向山氏の「黄金の三日間」からどのようなエキスを学んだのかというポイントが具体的に列挙されています。一日目から時系列で書かれていますから、すぐに追試できます。

1 向山洋一の「黄金の三日間」を正確にトレースしたら奇跡が起きた

根本先生は国語編。

小学校編では、向山実践を突き詰めて追い続けている石坂氏。氏が『教師修業十年』の記述にこだわりのながら「黄金の三日間」の計画をし、追試していく様子が描写されています。石坂氏にとって、向山氏を追試する最も重要なポイントはどこだったのか。それが良く分かる論文です。

①自分の考えを書かせる
②ほんのちよつとの違いを意識させる
③経験をもとにして大量に書かせる

この三つの学習スタイルについて紹介されています。子供のノートの写真も参考になります。どの子も文学作品の分析を原稿用紙十枚以上書けるような事実を創り出すためには、やはりこうした授業の積み重ねが必要なのですね。

必要なのですね。

木村先生は算数編。市販テストの平均が九五点を超える。子供たちのノートは年間十冊を超える。ノートには教科書のすべての問題が丁寧に書かれている。

難問・良問でユニークな解法が次々に飛び出し知的な雰囲気教室に漂う。こんな力を実現するための黄金の三日間の布石を三例、紹介していただきました。

3 発達障害の子との上手な出会いが教室を活性化させる

「暴れる子編」として小嶋先生。出会いの時から教師を挑発するような態度に出たり、不規則発言を繰り返したり、すぐに離席したりする子がいます。こうしたいわば「学校中で有名な子」を担任した場合、その子との出会いはどのようにすべきでしょうか。

- ①今までの大人と違うと思わせる
- ②具体的に褒めまくる
- ③ルールを明確にし、ぶれない
- ④ドンと構えた大人として立つ
- ⑤周りを守れ

この五つの原則が具体的に解説されています。日本中の教師に知ってほしい原則です。

「負けを認めない子編」として小野先生。ドッジボールで負けそうになるとチームメイトに悪態をつく、手を挙げて指されないとふてくされる、百人一首でも負けそうになると相手に乱暴したり、教室を出て行ったりする……。

こんな子がいるクラスではどのように最初の三日間を設計するのでしょうか。小野先生が「間違える体験」を巧みに子供たちにさせていく様子が良くわかります。

4 『教材選びの〇と×』が一年間を左右する。三つの見るポイント

原理・原則編を松崎先生。一年間子供たちが使う教材をどう選ぶのかは極めて重要なポイントです。誰が決定するのか、いつ採択するのか、採択の基準は何か、絶対に採択してはいけない教材はどこを見ればわかるか？松崎先生の「三つの戦略」と、「三つの原則」は必見です。

各教科編を許先生。国語のテストで「気持ち」を聞けば曖昧になります。文字数が決まらなければずらずらと長く書いてしまします。

そうしたことを防ぐ「学習のシステム」が組み込まれている教材が良い教材です。国語と算数について、教材選びの具体的な観点を、それぞれ三つずつ示していただきました。

(本誌編集長 谷和樹)

意地でも褒める 向山氏の思想・哲学

何が何でも子供に成功体験を味わわせ、
褒めるという執念。
それが子供を大きく変容させる。
巨大な事実が生まれる。

1 自分の黄金の三日間の原型

黄金の三日間を迎えるに当たって、私の原型にあるもの。それは、向山洋一氏の『教師修業十年』の林君に対する接し方である。



向山洋一
『教師修業十年
—プロ教師への道』
(明治図書)

『教師修業十年』に次の文章がある。わずか数行の間に、教師の仕事は何たるかというメッセージが込められている。

始業式の日、何が何でも彼をほめようと思った。そして、授業のあいさつの号令をする係にしようと思った。そうすれば、毎時間彼は自分の仕事を与えられ、しかも授業開始の時に教室にいない必要はないこと

になるからだ。(中略)

ぼくは彼の着ている服がぼくと同じでもほめようと思っていた。そのためジーパンをはいていたほどだった。彼が立っている地面がきれいでもほめようと思っていた。ほめることができるかどうか、彼との最初の勝負だと思っていた。(P56～57)

この文章はサラリと書かれている。しかし、あまりにもすぎる「サラリ」である。

当然、追試することは誰かを「あいさつ係」に任命することではない。ジーパンを履くことでも、立っている場所がきれいなことを褒めることでもない。

では、何を追試すべきなのか？ それは、これに尽きる。

何が何でも子供を褒めること。

向山氏は何としても林君を褒めようとしているのが分かる。そこには向山氏の執念、意地が感じられる。

向山氏が林君にしたことを、私も自分

の教室で実現したいと常に思っている。黄金の三日間ならなおさらである。

2 立ち歩きがなくなった子

以前、担任したA男。重度の多動の子供であった。

授業中の立ち歩きはもちろん、全校集会でも立ち歩く子供だった。授業参観のときも立ち歩き、教室の後ろで縄跳びをすることもあったという。彼の行動が元で、授業に支障が出ることもしばしばであったという。

このA男の立ち歩きを何とかしたかった。そのたびに周囲から冷たい目で見られ、多くの教師から叱責を受け、自己肯定感を下げてしまっていた。

A男に、「しつと話を聞いていたことによる成功体験」を何としても味わわせたい。向山氏同様、出会いの日が勝負だと思っていた。

A男との出会いの日。クラスの子供たち全体に言った。

これから始業式が始まります。

始業式というように、「式」がつく

行事では、姿勢よく座っていることが大切です。このようにです。

(見本を見せる) 先生は式の途中、ずっとみんなを見ています。後で姿勢が良かった人の名前を呼びます。頑張りましょう！

こう言ったとき、A男は嬉しそうに言った。「先生、俺の名前も頑張ったら呼んでくれるの!」

私は、「もちろん!」と答えた。

さらに、始業式の直前にA男の所に行き、「頑張れよ。あなたを見ているからね」と言った。

始業式。A男はずっと姿勢よく座っていた。一切立ち歩かなかった。三十秒おきほどに私の方をじつと見てきた。「僕は頑張っています!」と言いたいのだろう。私はニコニコしてうなずいていた。

かくして、A男は始業式の間ずっと姿勢よく座っていた。当然、後で名前を呼んで褒めた。A男は大喜びであった。

たったこれだけの成功体験である。

その後、驚くことが起こった。

始業式での成功体験を皮切りに、一年間立ち歩きが皆無になった。

前年度まであれだけあった立ち歩きが皆無になった。テストで九〇点、一〇〇点を取るようになった。宿題もしてくるようになった。あらゆることが大きく変容していった。周囲の教師も驚いていた。何が起こったのだと口々に言っていた。たった一度の成功体験が、かくも大きな効力を発揮するのである。

3 思想・哲学をトレースせよ

教室には、いわゆる「手がかかる子」が必ずいる。前年度まで「どうしようもできない」と思われていた子もいる。

「何が何でも子供を褒める」という、向山氏の思想・哲学をトレースして、黄金の三日間に臨む。そうすることで、奇跡は起こる。

向山型ならばわずか 三時間でルールと仕組みを 構築できる

中学校の黄金の三日間を文句なしの
成功で終えるには、向山実践の
トレースが不可欠である。

埼玉県秩父市立高篠中学校
TOSS埼玉志士舞
はせがわ ひろ ゆき
長谷川 博之



過去二年間の私の授業に慣れているせ
いか、方針演説も指名なしで次々と進ん
だ。委員会まで決めて十分とかならな
かった。大いに褒め、各活動のチェック促

を送るための仕組みなのだ」と教える。
こうして「何をするか」を明確にした
後は、「誰がするのか」を明らかにする。
担当者の決定もまた向山型。立候補じや
んけんである。その趣旨も説明した上で
決めた。そのときの板書が次である。



二時間目は係活動である。過去二年間、
どの学級もこの活動には取り組んでいな
い。よって、趣意説明を行った。企画書

進機能としての日直の仕事を教えた。そ
して、生活班の編成までした。学校の規
定により最初は名簿順の座席でスタート
する。その座席を六人ずつの班に区切り、
班長以下の担当を決めさせたのである。
清掃担当場所や給食当番の順番等もここ
で確認しておく。

新年度最初の三日間がその後の一年間
を左右する重要な時間であることを、私
は向山洋一氏から学んだ。以来、十数年
間、向山型で黄金の三日間を成功させて
きた。向山型指導は生徒指導推進モデル
校に認定された中学校現場でも存分に効
果を発揮する。私はその生き証人である。
二〇一三年四月一日、娘の入院に伴い、
病院と学校を往復する生活が始まった。
二週間以上の長丁場であった。
四月一日の会議には出席したものの、
以降は検査の付き添い等のため時間休を
取らざるを得ない状況であり、「黄金の
三日間の準備」をする余裕はなかった。
それでも、蓋を開けてみれば、学級開
きは大成であった。一、二年と週三、
四時間の国語授業のみの付き合いであっ
た生徒たちを、中三で突然担任すること
になったにもかかわらず、である。
飛び込み担任、かつ準備もできずして
大事を成功裡に終えられた秘訣は一つ。
向山実践を追試したからである。
四月八日、始業式と入学式後に二十分

間の学活があった。宿題等の提出物は朝
のうちに配膳台の上に提出させておいた
が、配付物がなんとも多かった。この日
は自己紹介と所信表明を短くし、翌日の
連絡をして終えた。想定内である。
翌九日。学活が四時間特設された。こ
こで学級を組織する。

一時間目、まずは「ルールの総ざらい
と仮決定」を行った。複数の学級の生徒
が集まる。それぞれでルールが違ったは
ずである。それを調整するのである。

朝の登校から放課後までの生活をイメ
ージさせ、場面ごとにルールを出させて
は統一していった。意見の分かれた部分
は私の責任で「そこはこうするが、よい
か」と整理していった。「変更の必要が
生じたらその都度改めていく」と伝え、
ルール作りを終えた。十五分弱かかった。

次に、当番活動と係活動の違いを教え
た。向山氏の趣意説明をトレースし、そ
して、「中学生ならばたとえ担任が一週
間不在となっても、滞りなく安心・安全
に生活することができることが大事だ。
学級の組織とは君たちが自主自立の生活

の書き方も教えた。そこまでしてから活
動内容を検討させた。七分ほどして指名
なしで発表させると、六つの係の立ち上
げが宣言された。企画書を書く時間を取
った。生徒は大いに熱中した。

三時間目冒頭、係活動立ち上げを決め
る学級会を開いた。休み時間のうちに企
画書を印刷、配付しておき、学級委員に
は私の司会を見て学ぶように告げて、で
ある。各係からの提案に対して質問や意
見も活発に出、結果として五つが承認さ
れた。否決された係の生徒たちは早速次
の活動を模索していた。この係活動が
後々学級を美しく彩ることになる。

以上で黄金の三日間で決めるべき学級
のルールと仕組みとが決まった。所要時
間二時間。向山型は明快ゆえ決めるべき
が次々決まる。三時間目には六月に行く
修学旅行の「班編成の方法」を討議し、
実際に編成まで行った。残りの時間と四
時間目で必要な学級掲示を討議し、作成
した。三日目はもちろん、全員参加、全
員熱中の授業を連発した。生徒の日記に
は、密度と速度に驚く声が綴られていた。

自分の頭で考えたことを ノートに書く

ノート作業こそが思考力を伸ばす。
学習の跡はノートに残る。
ノートに書かれていることが
学習の蓄積の全てである。

福島県喜多方市立駒形小学校

根本 直樹

1 自分の考えを書かせる

「正しく読む」
「正しく書く」

これが、国語の授業で最も重要なことだ。そのために音読の授業方法をどうすればいいのかを考え、漢字の覚え方をどう教えればいいのかを考えていく。

音読では「個別評定」を入れることが重要だ。どのような音読が上手であり、自分がどのレベルにいるのかを教えなければ決して上達はしない。一〇点満点の何点なのかをテンポよく評定する。

漢字は「あかねこ漢字スキル」を使うことが最大のポイントだ。

さて、A君の三年生のときの国語のノート、最後のページである。



日付を見ると四日分ある。四時間で一ページである。これでは学力は高まらない。

ちなみに、最後の問題はこうだ。
「豆太がおくびようでなくなったのはいつか」

この発問も良くないが、もつと悪いのは「考えたことが全く書かれていない」ことである。

A君は「思いついたことを次々にしゃべる」タイプで、書くのが苦手である。おそらく、そのような態度が許されていたのだろう。

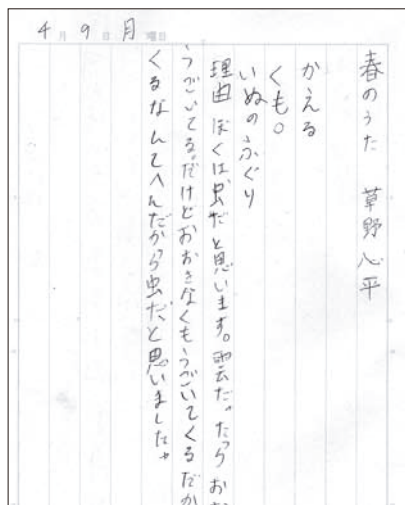
まずは、そこから「教える」ことが必要だ。このように、「前年度の実態を把握すると、やるべき指導が見えてくる」のである。

次のノートが、四年生最初の授業のときのものである。

どんな考えでも「書いたら合格」

として褒めることが、ここでは大切だ。どんなことでも「書いたことが認められ

る」雰囲気があれば、評論文で自説を主張する子供にはなかなか育っていない。自由な雰囲気を作り、その次に「文章を理由にしていること」を褒めていく。



一時間で一ページでは少ないが、最初はこのくらいだろう。

2 ほんのちよつとの違いを意識させる

二時間目も次のことが大切だ。再度示す。

「正しく読む」
「正しく書く」
次の文がある。

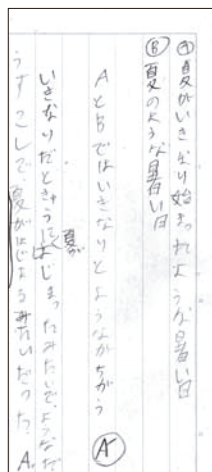
A 夏がいきなり始まったような暑い日
これをいかにして正確に読ませるか。

ほんのちよつとの言葉の違いが意味を変えてしまう

ことに気づかせる必要がある。
そこでBと比較させる。

A 夏がいきなり始まったような暑い日
B 夏のような暑い日

ほんのちよつとだが違う。この違いを考えさせていくのである。
もちろん、理由を考えて書かせる。



書いた上で発表させるのである。

3 経験をもとにして大量に書かせる

一つの言葉を使って大量に文を書かせる。ここでは「とる」だ。



このような作業によって脳の中にある言葉がネットワークを作っていく。

このような学習が飛躍的な学力上昇の土台となる。

教えて褒めて 知的興奮を味わわせる

美しいノートを書き方を教え、
前学年計算二十問で実態をつかみ、
知的な授業で逆転現象を起こす。

埼玉県皆野町立皆野小学校
木村 重夫

2 前学年までの実力をチェックする

出合いの算数授業で、子供たちの実態を知る必要がある。次のものを用意する。

前学年の計算問題二十問調査

前の学年までにどれだけの計算力が身に付いたか、具体的な数値で実態を把握する調査である。

前の学年が崩壊していたり、問題解決学習を推進する教師に教わって教科書を開かせてもらえなかったりした場合、子供たちの学力は低い。新担任のせいではない。前学年の指導に問題があったのだ、ということを確認する貴重なデータがとれる。採点後の解答用紙は教師が保管しておくとうい。新しい教師を守ってくれる調査とも言えよう。

オススメの学力調査はこれである。

正進社のワークテスト付録
新年度学力チェック・知識と活用
はじめテスト算数

1 「勉強できる子のノートは美しい」 ことを教える

ノートが丁寧で美しい子は算数もよくできる。逆に言えば、「ノートが汚い子は勉強苦手が多い」とも言える。ノートを丁寧に書く意義を教え、きれいに書く方法を身に付けさせたい。

誰でもできるノート指導のためのスパー教材がある。

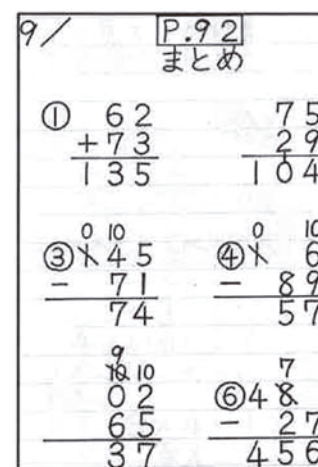
新・向山型算数ノートスキル一〜六年



「ノートスキル」を使うと、次のことを

「説明なしに」教えることができる。

- ① 勉強した日付を書く
- ② 教科書ページを書く
- ③ タイトルを書く
- ④ 数字は濃く、大きく書く
- ⑤ ミニ定規で線を引く
- ⑥ 計算と計算の間は指二本分開ける
- ⑦ 計算と計算の上下は二行分開ける



勉強できる子はノートがきれいです

3 楽しく知的な出合いの授業をする

正進社の「はじめテスト」には、前学年の計算問題二十問、さらには「活用」のための長文問題がついてくる。（全国学力テストに対応する活用問題である）「はじめテスト」は、正進社ワークテストを購入すると、付録でついてくる。

「今度の先生、面白い！」と思わせたい。高学年なら向山洋一氏の次の実践を追試したい。（『教師修業十年』向山洋一 明治図書 三九〜四十ページ）

まず $4 + 2$ と板書して「簡単だ」と思わせ、 $4m + 2$ を提示する。「できない」または「 $4m$ と 2 」とそのまま言うしかないことを教える。これらを布石として次の四問を出す。① $4 \div 2$ ② $4m \div 2$ ③ $4 \div 2m$ ④ $4m \div 2m$

テンポ良く笑顔で提示する。

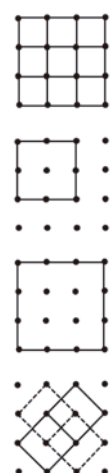
「全問正解は一人もいない」に近い状態になる。向山氏は言う。「どうだ。少し自信をなくしたか?」「自信がなくなることは、大変いいことだ」

続いて次の問題を出す。⑤ 4×2 ⑥

$4m \times 2$ ⑦ $4 \times 2m$ ⑧ $4m \times 2m$
「全員が間違える」現象、さらには「できると言われる子が間違えて、できないと言われる子が正解する」これぞ逆転現象である。

次の問題も子供が熱中する。「●」を結んでできる正方形は全部で何個ですか

一つ一つをノートに書き出していくと、多くの子は「十八個」までいく。



得意そうにノートを持って来た子に、黙って「×」をつける。「ええ?」と驚いて席に戻る。「降参ですか」「答を教えましょうか」「待ってー!」教室は熱中状態である。少し斜めの正方形二個を発見できた

ら「すごい!天才」だ。



暴れる子供を受け持つ ときの5原則

黄金の三日間で決める一年間の布石。
暴れる行為を二種類に分類することで
対応が大きく変わる。

長野県大町市立美麻小学校
こじま ゆうき
小嶋 悠紀

黄金の三日間では、どんなに暴れる発達障害の子供でも静かにしていることが多い。もし初日から暴れる子供であったら、二次的適応障害の可能性が高い。

しかし、それであっても黄金の三日間の出会いでその後の一年間が決まることは間違いない。

まず「暴れる」という問題行動について正しく捉える必要がある。それは「回避拒絶型」と「オキシトシン型」である。「回避拒絶型」は暴れることで、何かを回避したり遠ざけたり拒絶したり、自分の主張を通そうとしたりするパターンである。叱られたくなかったり、負けや非を認めなかったりする子供に多く、この場合、自尊心が著しく低下している。「オキシトシン型」は暴れることで、注目してほしい、かまってほしいという欲求を満たしているパターンである。暴れることで多くの大人の目がこちらに向いて、相手をしてもらい充足感を満たしている。これまでの大人の対応のまずさが引き起こしている事例である。

このような子供たちにどのような出会

いの原則があるのかを、以下に解説していく。

原則1 今までの大人と違つと思わせる

暴れる子供の多くは「大人」というものに不信感を抱いていることが多い。今までの大人と違う！という印象を初日に持たせることが重要だ。特に「名前を覚えて、名前を呼ぶ」ということはかなり効果的である。多くの教師は名前を覚えずに、子供の前に立ってしまふ。子供たちもそのつもりでいる。名前を覚えて初日に呼んであげることによって衝撃が走る。

「今までの教師と何か違うぞ」と一発で入力できる。また、楽しい出会いも重要だ。後出しじゃんけんなど楽しい実践はTOSランドにたくさんある。ぜひ参考にしてみたい。

原則2 具体的に褒めまくる

かつて向山洋一氏は、問題行動が多かった子供を担任したときにジーンズを履いていったという。その子もジーンズを履いてきていたからだ。「同じジーンズ

だね」と褒めることができる。

暴れる子供たちのほとんどは、「褒められる」といった経験よりも「叱られる・指導される」という経験の方が多い。出合いの三日間でその「教師＝叱る大人」という構造を破壊しなければならぬ。発達障害を持つ子供たちの特性として以下のものがある。

「信頼できる大人の言うことならば、聞くことができる」

東京教育技術研究所より発刊されている『発達障害がい児本人の訴え―龍馬くんの6年間―』に詳しい。

そしてその信頼関係を構築していく一歩目が「褒める」ことである。発達障害の子供たちで自尊心を低下させてしまっている子供たちの多くは「認められたい」「願望が非常に強い」。

「この先生は認めてくれる先生だ」「分かってくれる先生だ」と新たな構造を構築する必要がある。

原則3 ルールを明確にし、ぶれない

向山氏のアドバロン対応は、発達障

害の子供たちにとって優しい指導でもある。

「ルールを明確にする」「ぶれない」ということが貫かれるからである。ASD（自閉症スペクトラム）傾向のある子供に有効だ。回避拒絶型の暴れ方をする子供の中には、暴れれば要求が通ると思っている子供もいる。ルールを貫くぶれない姿勢は、このような子供に対応する際に大切な姿勢となる。

原則4 ドンと構えた大人として立つ

国立成育医療研究センター・宮尾益和氏の言葉である。黄金の三日間で暴れることがないとは言えない。

もし万が一、暴れたときに「慌てふためかない」「おろおろしない」「感情的に対応しない」ことが重要だ。前述したような対応をすると、「なんだ！結局今まで大人のと一緒にじゃないか」と、積み上げてきたものがすべて崩れ去ってしまう。「お、いよいよ来たね」というくらい余裕で対応する方がいい。大人が安定していなければ、発達障害の子供も安定す

ることはない。

原則5 周りを守れ

もし暴れてしまったら、まずは「周りを守ること」に徹する。オキシトシン型の暴れ方をする子供は、「暴れればかまってもらえる」と誤学習をしている場合もある。今までは暴れれば、教師はその子に対応しているはずである。しかし、暴れると周りの子供を守るために教師が動く。この姿を見せるのだ。「あれ、今までと違うぞ」となる。

逆に子供が熱中する活動のときに、強い刺激でたくさん褒める。「暴れるよりもこちらの方がかまってもらえるのだ」と新たに学習させていく。

このアドバイスだけで、発達障害の子供の暴力行為が改善に向かっていくケースは多い。

原則を踏まえ、対応さえ間違えなければ、暴れる発達障害の子供を全く逆の方へ変えるための一歩を踏み出せるはずだ。黄金の三日間で一年間の布石を打っていったほしい。

失敗の経験を 成功体験に変える

負けを受け入れることができない子には、
まず失敗を受け入れる経験をさせていく。
そのときに役立つのがTOSSの教材・教具
である。

岡山県岡山市立芥子山小学校
おの たか ゆき
小野 隆行

1 暗唱テストで間違える体験をさせる

負けを受け入れない発達障害の子を担
任するようになって、できるだけ早い時
期に、暗唱に取り組むようになった。
今では、黄金の三日間のうちに必ず取
り組んでいる。

それは、負けを受け入れない子が、ほ
ぼ確実に「失敗」を受け入れる経験がで
きるからである。



「負け」を受け入れられない子へは、
まず「失敗」を受け入れる経験をさせて
いく。そちらの方が難易度は易しい。
テストの審査は、いやが上にも厳しく
行われる。詰まる場所はもちろん、ほ
んのちよっと間が空いても不合格。
だから、次のような現象が起こる。

テストを受けた子のほぼ全員が不
合格になる。

このような状態の中でなら、不合格に
なってもキレイなのである。ここで、一
つの原則が分かる。

原則 周りが間違っている状態でなら、
失敗を受け入れられる。

表情を見ていると、テストを受ける前
から「失敗すること」を想定してテスト
を受けているのが分かることがある。

これはすごいことだ。暗唱テストだか
ら生じる事実である。そして、その事実
を取り上げて褒めて強化する。

失敗しても、イライラしないなん
てすごいなあ。

このように強化すると、次の挑戦でも
失敗を受け入れやすくなる。

こうやって、「失敗」を少しでも受け
入れやすくし、もう一段上の「負け」を
受け入れる土壌を作っていくのである。

2 チャレランでたたみかける

暗唱テストで、「失敗」を受け入れる
経験ができた。その上で、同じような体
験をさせて、さらに強化していく。

暗唱テストと同じで失敗の可能性が少
ないのは、ペーパーチャレランである。

ペーパーチャレランは、何度でもやり
直すことができる。だから、子供の思考
は次のようになっていく。

一回の失敗は、失敗として感じない。

上手いかないときには、次の紙に挑
戦するようになる。これが、実は「失敗
したときの望ましい行為」となっている。

それが自然に出てくるところが、ペー
パーチャレランのすごさだ。
当然、それを取り上げて強化する。そ
れが、ここでの目的なのだ。

上手いかななくても、イライラせ
ずにやり直していてすごいなあ。

ここでは、「失敗」をあえて取り上げ、
意識していなかった失敗を意識させる。
また、黒板に貼ってある上位三人の子
から落ちたときもキレイな体験をさせる
チャンスである。

多くの子は、逆転されたとき、逆転し
た子の点数とともに、どんな方法を使っ
たのかに意識が行く。だからキレイない。
このような経験の上で、五色百人一首
を始めると、より負けを受け入れやす
くなる。

3 カレンダーのトレーニング

ほんの少しでも思い通りにならないと、
すぐにキレる子がいた。
頭では良くないと理解していても、か

つとなると感情が抑えられないという。
その子とは一年間、カレンダーを使っ
てトレーニングをした。
キレイなことではなく、かつとなつた
とき、少しでも早く「きりかえる」こと
を目標にした。そして、その目標「きり
かえる」という言葉を朝と帰りに十回ず
つ言うことにした。

トレーニングをすることで、目標の意
識づけだけでなく、少なくとも朝と帰
りは、努力していること自体を褒めること
ができる。

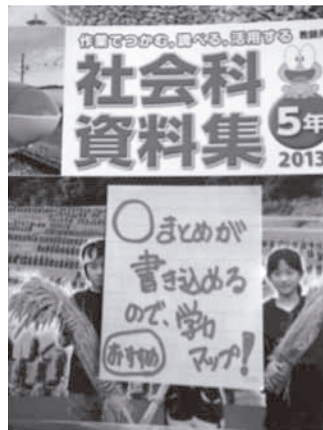
そのトレーニングは、三月の末まで続
いた。カレンダーにびっしりと書かれた
印が努力の跡として自信につながった。



教材選びは 戦いのときと心得る

教材採択を全て自分が行うという気概を持ち、
戦略的に取り組む。
3つの原則と3つの戦略で採択を勝ち取ろう。

栃木県茂木町立逆川小学校
まつ ざき つとむ
松崎 力



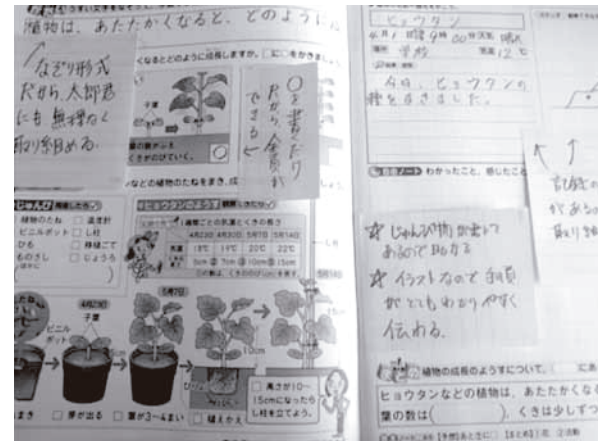
こうしておけば、特に希望の教材をも
たない他の教師たちは、一発で採用を〇

うに、子供のモチベーションが高まる教
材であるかということである。
ドリル学習のように、できる漢字を何
度も練習するような方法では、子供はい
い加減な学習態度になる。

【原則3】授業の中で使えること

あかねこ計算スキルのように、授業の
最後のまとめとして活用できるなど、授
業に位置付けられる教材を選ぶ。

これらの原則に照らし合わせて、教材
を選んでおく。そして、付箋紙に良い点
を書き込んで、教材に貼っておく。



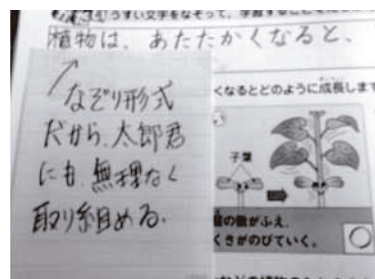
さらに突っ込んで、自分で教材に取り
組んでみると説得力が増す。
次の写真は、正進社の理科ノートであ
る。実際に自分でやってみて、効果のあ
る部分を付箋に書き貼っておく。

戦略② 自分でやってアピールする

Kしてくれる。採用したくない教材には
しつかり×と理由を記しておく。

教材は、採択をした後に届け出が必要
となる。会社名やそのほか諸々のことを
記入しなければならぬ。そのような仕
事をすべて「自分がやります」と進んで
引き受ける。
人任せにせず、自分で全て引き受けて、
人よりも先に行動で示す。教材採択は戦
いの場である。先手必勝である。

戦略③ 面倒なことを引き受ける



気になる太郎君の名前を記し、
特別支援教育に有効なことを
訴える。

付箋の中には、学年の中で気になる子
の名前を書いておく。その子に有効だと
いうことをアピールすると採用率は格段
にアップする。

【原則2】子供の意欲が高まること

これはあかねこ漢字スキルの「間違え
た漢字のみの再テスト」に代表されるよ

やり方がはっきりしているので、誰も
が安心して使用することができると、誰も

月曜日・火曜日・新出漢字練習
水曜日・十問の漢字練習
木曜日・漢字のテスト
金曜日・間違えた漢字のみ再テスト

やり方がはっきりしているので、誰も
が安心して使用することができると、誰も

【原則1】ユースウェアがあること

あかねこ漢字スキルは次のようなユー
スウェアがある。
月曜日・火曜日・新出漢字練習
水曜日・十問の漢字練習
木曜日・漢字のテスト
金曜日・間違えた漢字のみ再テスト
やり方がはっきりしているので、誰も
が安心して使用することができると、誰も

教材選びは、一年間の授業づくりを左
右するほどの大切なことである。
単学級ならば自由に選べるだろうが、
複数学級ある場合は心してかかりたい。
たとえどのような素晴らしい教材であつ
ても、選ばれなくては宝の持ち腐れとな
ってしまう。戦略的に取りかかる。
大切な心構えは、

自分がすべて取り仕切って採択する

という気概を持つこと。それがなければ
負けると心得ておく。

戦略① 担任発表後、すぐに動く

自分が一年間受け持つ学級が決まった
らすぐに動く。
教材は、各教材会社が先を争って届け
るはずだから、誰よりも先に保管場所
に行く。他の人たちは、事務手続きや「こ
の学年どうなの？」などのお話に夢中
になっているときだ。そのときに、すで
に教材採択に着手しておく。

たぐさんの教材会社から届いた教材を
教科別に並べる。それらの中身をざっと

学習の「システム」が 組み込まれている教材を 見抜く

学習のシステムが組み込まれた教材を使えば
「指導者が楽になり」「子供に力が付く」。
教材の正しい使い方（ユースウェア）がセット
になっている教材を採択しよう。

兵庫県姫路市立城乾小学校
法則化サークル山風

ほ じょう まん
許 鍾 萬

「全部で五日間」の学習パーツに分ける
ことができる。
それぞれのパーツは有機的につながっ
ていて「まずこれをする」「次にこれをする」
「その次にこれをする」という風に、一つ一つの
順番に意味がある。
漢字の学習教材を選ぶときに「かわいい表紙」や
「キャラクター」に惑わされてはいけない。中身も
見ないで教材を採択すれば一年間苦労する。漢字
の読み書きは国語の基本だ。
「たくさん練習できるかどうか」も特に重要な
観点ではない。少ない練習量でも漢字は書けるよ
うになるからだ。
大切なことは「筆順」を唱えながら繰り返し書
くことである。
レイアウトなどの編集上の都合で筆順が一部「省
略」されている教材がある。漢字が苦手な子はす
ぐにわからなくなってしまう。
画数が多い漢字でも筆順を一画ずつ書いてある
教材を選ぶのが大切だ。
国語のテストは「書き抜き」問題が多い。

学習の「システム」とは何か。

例えば「漢字スキルの指導」がシステムだ。

他にも「計算スキルの指導」「五色百人一首の指導」「暗唱の指導」、これらの一つ一つが全てシステムだ。

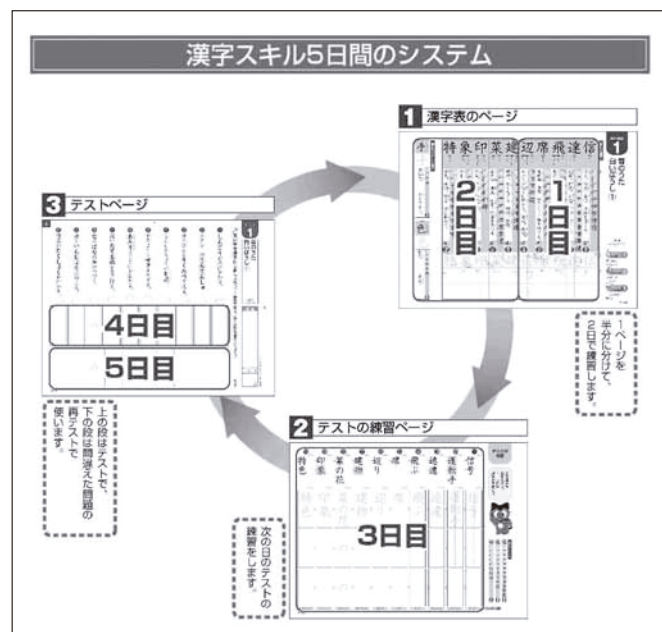
中でも、一番完成度が高いと考えられるシステムは、「漢字スキル」や「計算スキル」のように教材として完成されたシステムである。

1 国語の教材選び

観点① 筆順が全部示されているか。
(漢字ドリルなど)

観点② 書き抜き問題がメインになっているか。(テスト、ワークなど)

観点③ 子供がシーンとなって取り組めるか。(視写、作文など)



「あかねこ漢字スキル」という教材は学習のシステムが組み込まれている。

- ① ゆび書き
- ② なぞり書き
- ③ うつし書き
- ④ 空書き
- ⑤ テスト

答えを書く欄が(括弧)になっていると子供は思わずと長く書いてしまう。マスを埋める「書き抜き」問題ならば、字数が決まり答えが明確になる。

正確に読む、文を正確に書くというのが国語の基本だ。テストをしながら基本を学ぶことができる。これも学習のシステムだ。

印象ではなく中身を検討するのが教師の仕事だ。印象で選ぶならば素人でもできる。

2 算数の教材選び

観点① 直接書き込んで問題を解けるか。(ゆったりとしたスペース)

観点② 答え合わせまでを授業時間内に完結できるか。

観点③ 時間差に対応できるか。

教科書の問題は全て授業中に解く。算数の授業で大切なポイントだ。その上で、教科書以外の教材を使うことになる。「やりのこした問題を宿題に

する」、さらに「採択した教材も宿題として出す」というのは教材選びの観点以前の問題だ。

教材に書いてある問題を「ノートに写して解く」というタイプの教材がある。教材があるのになぜわざわざノートに写して解く必要があるのかと子供が言う。全くその通りだ。

問題数を増やしてしまったので書き込むスペースがなくなったという「大人の事情」だ。

書き込めるように編集されている教材は、問題を取捨選択し「子供が解きやすいように」レイアウトを調整している。

問題数が少なくなるのだから、一つ一つの数値や問題配列に至るまで研究しなくてはならない。細部までこだわった教材の中身を見抜き採択したい。

また、問題を解くのが早い子もいれば遅い子もいる。そのような時間差に対応できる教材を採択するのがいい。個々の能力にあった問題数や課題を選択できる教材が理想的だ。